

■ 講演日程・テーマ・講師プロフィール

5月20日🌞 18:00～19:30

『歴史学が変わるー自然への新たなアプローチー』

村山 聡 教授 【香川大学教育学部教授】

動物、植物、ウイルス、水、空気、災害、食、廃棄物、人類などを対象とする「環境史」研究は、歴史学という学問がこれまで対象としてきた世界を大きく変えつつあります。地球環境の超長期的な歴史は語られて来たものの、歴史学は本当に自然を対象としてきたのでしょうか。地球そのものの将来を人類が決めかねない今日、文系・理系の枠を超えて、人類と自然との関係性の宝庫である過去の「実験場」を知り、今後に役立てることに、歴史学は新たな挑戦を始めています。環境史研究の新しい世界を分かりやすく紹介したいと思います。

5月22日🌞 18:00～19:30

『思考力と発信力～多様性が求められる時代でのサバイバル～』

上田 昌孝氏 【(株)ディノス・セシール取締役会長】

日本が抱える財政破綻、エネルギー問題、TPP など多くの問題。日本だけの価値観で考えていても、本質的な解決は見出せないテーマばかりです。そういう時代にビジネスとして、あるいは個人として生き残っていくためにどのような価値観が必要か、また将来の日本のためにどのような人材を育成すべきか、について議論します。

5月27日🌞 18:00～19:30

『極限環境に生きる植物ーしくみの理解とその応用ー』

東江 栄 教授 【香川大学農学部教授】

植物の中には通常の植物が枯れてしまう過酷な環境でも生きていけるものがある。アイスプラントは南アフリカ原産の植物で、海水をかけても枯れない耐塩性の強い植物である。この植物は塩分に対抗して様々な物質をつくる。これらは人体にとって有用な物質も含まれる。私たちはこの植物を新しい野菜として初めて流通させた。講演では、アイスプラントを用いた取り組みの概要、ならびに新しい機能性食材として期待されるアイスプラント以外の野生植物を紹介する。

6月12日🌞 18:00～19:30

『認知症についてーアルツハイマー病、プリオン病、血管性認知症を知っていますか?ー』

上野 正樹 教授 【香川大学医学部教授】

人口の高齢化に伴い、世界の認知症の患者数は今後数十年で爆発的に増加し、2050年までに現在の約3倍に達する可能性があるとの報告が、平成25年12月5日、国際アルツハイマー病協会から発表されました。現時点では、認知症の原因や治療薬をはじめとした様々な対処法はまだまだ確立していません。その認知症についての実験の結果も含め、現在考えられている原因や診断方法などを具体的に述べ、どのように対処していけば良いのか、概説します。

6月17日🌞 18:00～19:30

『国際協力のすすめ(異文化における援助のあり方)』

熊谷 信広 教授 【香川大学インターナショナルオフィス客員教授】

独立行政法人国際協力機構(JICA)から香川大学に客員教授として出向の講師による海外援助事情に関する講義。特に、アフリカ地域(ザンビア、ボツワナ)、東南アジア地域(ラオス)、カリブ海(ジャマイカ)に日本の政府開発援助(ODA)の現場責任者として長期滞在した経験から、異文化における援助のあり方を考える。いままで68カ国において実施したODAの経験の基礎となった様々な国の人々との生活を通して、相手の立場、ものの見方、文化を知ることの大切さ、日本のものの見方とは異なる人々との共生の思想の重要性を考える。その基本は、「認識せずして評価をしない」という考え方にある。

6月26日🌞 18:00～19:30

『瀬戸内国際芸術祭2013秋本島 善根湯×版築プロジェクトを振り返って』

齊藤 正氏 【(株)齊藤正毅工房代表取締役社長】

瀬戸内国際芸術祭2013秋本島 善根湯×版築プロジェクトを振り返って、その内容と、瀬戸内の島と関わりながら、アート作品をつくる意義、そしてこれから島とどう関わっていくのかを実際のアクティビティ事例に合わせて講演。

7月 7日🌞 18:00～19:30

『社会資本の維持管理と防災・減災への取り組み』

三浦 真紀氏 【国土交通省四国地方整備局長】

東日本大震災を契機として、巨大台風や巨大地震に備えるための防災・減災対策を強化するとともに、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラが今後一斉に高齢化することから老朽化対策を加速する必要があります。国土交通省四国地方整備局では、成長のための基盤の強化を図るとともに、ハード・ソフト面から防災・減災、老朽化対策を進め、豊かで安全・安心な社会の実現に取り組んでいます。

7月15日🌞 18:00～19:30

『人生戦略ー夢を実現するブランド・デザイン、「極め」「徹底せよ」』

大坂 靖彦氏 【株式会社大坂塾代表取締役塾長】

メーテルリンクのチルチルとミチルの兄妹が、幸せの青い鳥を求めて旅をするお話がありますが、チルチルとミチルのように、ただ旅をしているだけでは、探している幸せは見つかりません。大切なことは、自分自身がいる家庭、学校、職場、社会の中で「自分がどのような役割を担っているのか」さらに「担おうとしているのか」を明らかにすることです。現実逃避の「自分探し」ではなく、自分自身が居る環境に挑戦する「自分創り」でなければなりません。自分の幸せは探すものではなく、自分で創るものと考えております。私は、ポール・J・マイヤーの「君の人生は君の思い描いたとおりになる」という言葉との衝撃的な出会いにより、自分の命日を決め、そこに至る迄の壮大な人生のドラマを描きました。そして、情報を集め、戦略を駆使して、夢を実現してきました。私個人としての人生設計、即ち人生戦略、また経営者としての企業戦略の実例をご紹介します。私自身が実践し、成果を上げた、いわば実証済みの「自分創り」の手法である、人生設計の考え方・創り方についてお伝えします。

